

<p>一・生徒の育成</p>	<p>「豊かな心」の育成</p> <p>①道徳教育の推進</p> <p>②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進</p> <p>③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実</p> <p>④体験活動等の実施</p>	<p>①道徳教育の充実</p> <p>②いじめの未然防止・早期発見</p> <p>③友だちの考えを認め合う学級づくりに取り組む。</p> <p>④不登校の未然防止を図る。</p>	<p>・校内研究と並行し、児童が自分の問題として捉え、自分の生き方につなげられる道徳の授業を目指す。</p> <p>・よりよい道徳授業を模索するため、学年・学団で道徳的価値や授業について議論する。</p> <p>・部会や職員会議、また学級に関わる教員との情報交換を定期的に行い、いじめはじめとする事案の未然防止と早期発見に努める。</p> <p>・欠席、行き渋り、遅刻傾向のある児童については始業前後に家庭へ連絡を取る。また担任だけでなく、児童支援をはじめとする他の教員と連携して対応する。</p> <p>・年度毎の児童の様子や行ってきた支援策などの記録を残し、継続的な児童支援を行えるようにする。</p> <p>・仲間づくり集会（年3回）を実施し、思いやりの心や自尊感情を高める。</p> <p>・より多くの児童が、ふり返りて価値について考えを深めたり、自分の生き方について考えたりする。</p>	<p>・多くの児童が、授業を通して道徳的価値を深めたり自分の生き方、生活に結びつけて考えることができる。</p> <p>・テーマを自分の問題として捉え、問いに対する解を得ようと進んで学ぼうとしている。</p> <p>・教師が、月1回の研究タイムで、自分の実践について議論し、考えを深めたり広げたりしている。</p> <p>・部会と職員会議で気になる児童の事例や変化について情報交換を月1回行う。</p> <p>・長期欠席者を全体の1%未満及び、いじめを原因とする不登校0にする。</p>	<p>A</p> <p>・授業で価値について深めるだけでなく、自分の問題として考えたり、今の自分やこれからの自分を見つめることができた。</p> <p>・研究タイムは、年間行事に入れることでどの学団も計画的で活発な議論ができた。来年度に向けたアンケートでも、職員から大変有意義な取り組みだったとの高評価であった。</p> <p>・児童の情報交換を職員会で集約し、顔写真と併せてデータと紙の両方で保管することで職員室内であればどの職員でもすぐに確認ができ、未然防止や早期発見の手立てとなった。</p> <p>・1月末時点で病気や特別な事情を除き欠席数が30日以上になった児童は4名おり、全体の約1%である。全体での割合が低下しただけでなく、欠席日数が100日を超える児童及び2学期に5割以上欠席した児童がいないことは、担任と児童、保護者が一年をとおして良好な関係を構築できたこと、また校内教育支援センター等学校での支援体制が功を成したといえる。</p>	<p>・道徳の価値項目と自分の生活との関わりを意識させながらも、生活の反省会にならない、プラスで自分事に返していける授業展開を探る。</p> <p>・研究タイムのメンバーが固定されているので、価値項目でグループを組むなどして、より議論が深まるよう工夫する。また、研究タイムが長くなりすぎないように時間を決める。</p> <p>・学校内での支援体制構築や情報共有の精選が一定の効果を見せている一方で家庭基盤の不安定な児童や、学力面での課題が大きい児童については、別室対応だけでなく、SSWや通級など他機関との連携やより専門性の高い支援につなぐ必要がある。</p> <p>・いじめを主訴とした長期欠席や重大事態が発生しなかったことを今後の仲間づくりや学級経営に生かすとともに、児童職員ともにささいなことにも気づき、言い合える風土づくりを各分掌と連携しながらすすめる。</p>
<p>「健やかな体」の育成</p> <p>①児童生徒の体力向上の促進</p> <p>②発達段階に応じた健全な食育の推進</p>	<p>①自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。</p>	<p>・児童の体力、筋力、筋持久力、柔軟性を伸ばすためのせつトレを毎月種目を変えながら実施。</p> <p>・委員会活動による全校遊びや、定期的な外遊びの推進</p> <p>・児童が安全に体育の授業や休み時間の遊びに通り組めるよう、クラスの備品の配備や、遊具、体育器具の点検を実施。</p>	<p>・各クラスの体育授業において適切なトレーニング「せつトレ」を取り入れ、児童の体力、筋力、筋持久力の発達を図る。</p> <p>・体育委員による学年遊びを学期に何度か実施し、運動の機会を増やすとともに異学年交流を図る。</p> <p>・学年の実態や、領域ごとに必要な動きの取得を鑑みて、備品を配備し、必要に応じて購入、また用途を周知していく。</p>	<p>B</p> <p>・毎回の体育の授業で取り組んでいるクラスや学年では児童も多様な動きに慣れ、習慣化できていた。</p> <p>・体育委員がせつトレの見本動画を撮影し、スクールタクトで配信したが、うまく有効活用はできていなかった。</p> <p>・全クラスでの実施ができていなかった。</p> <p>・毎回対象学年の児童はほぼ全員意欲的に参加しており、体を動かすだけでなく、異学年交流の機会となった反面、学期に一回しか実施できなかった。</p> <p>・体育大会の表現運動について、複数学年で一部を外部のダンス講師に委託したことで、具体的な指導方法や表現の幅が広がり、子どもたちの意欲向上にもつながった。</p>	<p>・体育委員を中心とした高学年の「せつトレ見本動画」を作成し、配布することで低学年でも動きのイメージを抱けるよう取り組む。</p> <p>・全クラスで授業前にせつトレに取り組む。</p> <p>・体育委員による見本動画を、学校全体で確認できるようにし、有効活用する。</p> <p>・全体遊びだけでなく、希望者だけが参加できるミニゲームやウォークラリーなど多様な形で外遊びに対する啓発、機会づくりに取り組む。</p>	
<p>教育相談・支援体制の充実</p> <p>①キャリア教育の推進</p> <p>②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>③教育相談の充実</p>	<p>①キャリア教育の視点をもった授業づくり。</p> <p>②③児童が悩みを相談しやすい環境づくりをする。</p>	<p>・各教科の学習と実生活に必要な知識や技能とを関連付けるために、個々の役割やその重要性などを知る。</p> <p>・キャリアパスポートの記入、授業での活用。</p> <p>・SC、SSWとの連携、ケース会議や保護者面談への参加。</p> <p>・生活指導部会や職員会議、各研修会における児童の情報共有から問題事案の早期発見・早期解決につなげる。</p>	<p>・児童アンケート「学校で勉強することの意味や働くことの大切さについて教えてもらった」への肯定的な回答が90%以上になる。</p> <p>・自身の成長を実感しながらキャリアパスポートを書くことができる。</p> <p>・児童アンケート「悩みや不安がある時に、相談しようと思う先生がある」への肯定的な回答が80%以上になる。</p> <p>・SC、SSW、養護教諭、児童支援での連絡会議を月に1回以上行い、相談が必要な児童を共有し、必要な支援につなぐ。教職員間で児童に関する情報を共有する時間を月に1回以上設定し問題事案の改善を図る。</p>	<p>B</p> <p>・前年度よりも肯定的な意見が3%増えて85%となっているが目標に届かなかった。学習した内容を生活でどのようにいかすのかということについて、具体的な指導が必要であった。</p> <p>・1年間の成長をふりかえり、前年度と比較して書くことができた。</p> <p>・アンケートに対する肯定的な回答は68%にとどまったため、今後の課題として取り組む必要がある。</p> <p>・管理職、学年、生徒導、SSW、SC、専科等からの情報を集約し、必要に応じてケース会議を開くことで、学校全体で指導の方向性を統一するとともに情報共有を図ることができた。</p> <p>・別室利用児童の日々の様子を簡潔に記録し、それを基に毎月ミニ会議を開くことで継続的且つ漸進的な支援を図ることができた。</p>	<p>・学習した内容が、キャリア形成にどのようなつながるのかを示して指導する。また、将来のキャリア形成について、自分から考えるような活動を取り入れていく。</p> <p>・悩みや不安を抱える児童の思いを聞くことができていないことについて、「学校としていつでも聞く体制づくり」だけでなく、「聞く機会」そのものを教師側から設ける必要がある。何かあったら聞くのではなく、普段から意識して児童に声かけや面談を行い、悩みや相談でなくとも、先生が話を聞いてくれるという意識を児童に持ってもらうことから再度体制づくりを進めていく。</p> <p>・児童の話聞く時間を捻出するためにも、会議の精選や時間の短縮をより一層すすめていく。</p>	

<p>特別支援教育の推進</p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>②特別支援教育に対する全職員の共通理解を深め学校全体で取り組む体制を構築する。</p> <p>②特別な支援を要する児童の教育的ニーズを把握し、必要に応じた支援体制を整える。</p>	<p>・特別支援教育に関する知識を深めるための研修会を実施。</p> <p>・個別の指導計画の作成及び活用。</p>	<p>・職員アンケート「特別支援教育推進委員会は支援を要する児童の共通理解を図り、適切な校内体制を組んでいる。」への肯定的な回答が95%以上になる。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・車いすの児童が入学してきたため、学校内で支援体制を組んだり、夏季研修を実施したりして、教職員の共通理解を深めることができた。</p> <p>・職員研修や毎月の会議で情報交換を行うことで、特別な支援を要する児童の実態や対応について全職員で共通理解を深めることができ、肯定的な回答が96%という結果につながった。</p> <p>・個別の指導計画を立てることで、児童1人1人のニーズを把握し、見通しを持って支援を行うことができた。</p>	<p>・引き続き、職員研修や情報交換を行うことによって、全職員が共通理解をもって特別な支援を必要とする児童に関わっていく。</p>	
---	---	--	--	---	---	--

<p>教職員の資質向上</p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①個々の教師の資質を向上させる。</p>	<p>・一人最低1回の授業公開をする。</p> <p>・校内の課題に応じた授業展開を模索する。</p>	<p>・授業公開し、多くの先生方に参観してもらい感想や指導をいただき、自身の授業力向上を目指す。</p> <p>・各学団で年1回、計3回の授業公開と事後研究会を開く。</p> <p>・各学団で授業について議論し、授業についての考えを深める。</p> <p>・子どもが問いを持ち、その問いを解決しようと意欲的に活動できるような授業展開を考える。</p>	<p>A</p>	<p>・一人一授業の公開はできたが、参観できる教師が少なかった。</p> <p>・授業公開後は、授業者の希望があれば30分のショート事後研を行った。様々な先生方の考えに触れることができ、昨年度までの個別で指導を仰ぐスタイルよりは学びが多かった。</p> <p>・2回目研究授業を取り入れることで、昨年度よりも複数(他学団)で道徳の授業について議論する回数が増えた。</p> <p>・子どもが問いを持てるような導入の工夫に努めたが、教材や価値によっては難しいものもあった。導入で生活に基づく話題にすることで、ふりかえりや終末でも生活に話しが自然と戻ることができ、より自分の問題として考える道徳が展開できた。</p>	<p>・一人一授業を無理ない範囲で計画的に実践する。一人1授業の目的を明確にする。</p> <p>・講師の先生がいない研究授業があり、道徳の授業づくりで多くの先生が抱えている疑問などを解決できなかった。校内研究、事後研、夏季研修は、できるだけ助言していただける講師の先生に依頼する。</p> <p>・生活経験が少なく、教材理解が難しい子どもの実態は、問いを持つことを難しくさせている原因の一つでもあるので、ICTなどを活用し教材理解や生活場面の理解がスムーズにできるよう工夫する。</p>
<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの充実</p> <p>②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>①②コミュニティスクールにおける地域と学校の連携、協働。</p>	<p>・学校運営協議会において、課題を地域と共有し、課題解決に向けた協力体制を整備する。</p> <p>・積極的に意見が交わされるよう、職員と委員の意見交流の場や児童の様子を見もらう場を設定する。</p>	<p>・年に1回以上、授業や学校行事を参観してもらう機会が、意見交換を行う機会を取っている。</p>	<p>A</p>	<p>・授業中や休み時間での取り組みを、地域の方に協力していただき、子どもたちの活動を広げることが出来た。</p>	<p>・今後も要望をあげていくことで、お互いに子どもたちのために、サポートしていただける場を持つことが必要である。</p>
<p>安全・安心な教育環境の充実</p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実</p> <p>②子どもの安全対策の推進</p> <p>③交通安全対策の推進</p> <p>④学校園施設の整備・維持</p> <p>⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>①②③地域や学校施設の実態に応じた安全教育を推進する。</p> <p>④学校施設を安心して使えるための整備点検。</p> <p>⑤教職員の勤務実態を把握した上での働き方改革を推進する。</p>	<p>・火災、防犯、風水害それぞれに対応した訓練を実施する。</p> <p>・まなびポケットを活用したメール訓練を実施する。</p> <p>・交通ルールや遊具、備品などの安全な使い方を指導する。</p> <p>・自転車教室など発達段階に応じた交通安全教室の実施。</p> <p>・月一回の安全点検を実施する。</p> <p>・教職員を対象としたアンケートを今年度も実施し、今まで実施してきた業務改善をふりかえり見直ししたり、業務改善すべきことを話し合ったりして、業務改善に取り組む。</p>	<p>・保護者アンケート「お子さんは自分の身を守り安全に生活するための方法を理解している。」の肯定的回答が90%以上になる。</p> <p>・保護者アンケート「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境を整えている。」の肯定的回答が90%以上になる。</p> <p>・教職員向けの学校評で、「学校は、職員集団として適切に機能させるため、業務改善委員会を通して、業務の改善が図られている。」の項目で肯定的評価が90%以上になる。</p>	<p>A</p>	<p>・保護者アンケート「お子さんは自分の身を守り安全に生活するための方法を理解している。」の肯定的回答が88%だった。目標値をやや下回ったが、概ね肯定的な回答だった。</p> <p>・保護者アンケート「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境を整えている。」の肯定的回答が100%だった。</p> <p>・学校評価での肯定的評価は92%であり、職員アンケートを通して業務改善につなげることができた。</p> <p>・2学期の初めに「随時気づいたことがあれば、お知らせください」という形で、意見を募ったが、呼びかけた時以外は意見が出てこなかった。</p>	<p>・引き続き災害に対応した訓練を行う。訓練内容も、反省を元にブラッシュアップさせたい。</p> <p>・引き続き、自転車教室など発達段階に応じた交通安全教室の実施を行う。</p> <p>・月に一度の安全点検を引き続き行う。</p> <p>・早い段階で業務改善の意見を募り、毎月の行事委員会の連絡と合わせて、意見を募り、多くの意見を吸い上げて、業務改善につなげたい。</p>

学校関係者評価総括

次年度に向けた重点的な改善点

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った